

—あおぞら—

2023 International Conference on CMAS-Asia-Pacific 開催報告

—世界 16 か国の大気質モデラーが日本に集う！—

2023 International Conference on CMAS-Asia-Pacific 実行委員長
埼玉県環境科学国際センター
大原 利真

今年に入り、2 年間以上にわたり実施が困難であった対面での国際会議が開催されるようになってきました。2023 年 7 月 17 日から 21 日、国立環境研究所の主催、5 つの研究機関等の共催、大気環境学会を始めとする 8 団体の後援、9 民間機関の協賛(注)により、さいたま市において大気質モデルに関する国際会議、2023 International Conference on CMAS-Asia-Pacific (<https://confit.atlas.jp/guide/event/amas2023/top>) を開催しましたので報告します。

CMAS (Community Modeling and Analysis System) は、米国環境保護庁 (US EPA) が創設した大気質モデラーのコミュニティであり、ノースカロライナ大学 (UNC) にセンターが設置されています。CMAS は、日本でもユーザの多い化学輸送モデル CMAQ (Community Multiscale Air Quality modeling system) の配付やトレーニングなどを行っており、毎年 10 月には UNC において会議を開催し、全世界から 200 名以上が参加しています。また、CMAS は最近ではアジアと南米で会議を隔年で開催しており、2018 年に北京で第 1 回 CMAS-Asia-Pacific 会議が開催されました。今回の会議はこの第 2 回目にあたります。

この会議では「One atmosphere in Asia-Pacific region — multi-scales, multi-interactions, and multi-effects —」をテーマとして掲げ、「大気に国境はなく、アジア・太平洋地域の研究者が協働し、多面的視点から大気汚染に迫る」ことをコンセプトとしました。会議の概要を表 1 に示します。本会議は 7 月 19 日から 21 日の 3 日間開催しました。著名な研究者 4 名による特別講演を皮切りに、9 セッションにおいて 12 件の基調講演と 63 件の口頭発表 (うちオンライン発表 5 件) があり、ポスターセッションでも 21 件の発表がありました。また、本会議前の 7 月 17、18 日に、CMAQ の基本や活用法・活用例などに関するトレーニングを実施し、国内外の若手研究者や学生など約 50 名が参加しました。

全体として 16 か国から 121 名の研究者が参加し、大気質モデリングに関する最新の研究成果の発表と活発な議論が行われました。ひさびさの対面での国際会議ということもあり、多くの最新の研究成果が共有され、熱心に議論され、また、至る所で旧交を温める光景が見られるなど、成功裡に会議を終えることができました。今回の開催は、わが国の大気質モデル・コミュニティの存在感を示すとともに、深刻な大気汚染問題を抱えているアジア地域におけるモデル研究の進展に大きな貢献を果たすものと確信しています。

最後に、実行委員会を代表して、本会議に様々な形で協力・支援して頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。なお、本会議は大気環境学会に後援頂いたほか、「大気環境未来 60」募金の援助を受けてアジア各国からの若手研究者の参加支援を実施したことを申し添えます。

実行委員会:

茶谷 聡 (事務局長)、板橋秀一、伊藤美羽、上田佳代、大島 長、黒川純一、櫻井達也、佐藤啓市、嶋寺 光、菅田誠治、速水 洋、森野 悠、山地一代、山村由貴、山本重一 (50 音順、敬称略)

(注)

【共催】The State Environmental Protection Key Laboratory of Sources and Control of Air Pollution Complex in China、Center for Community Modeling and Analyses (CMAS)、Northeastern University、World Meteorological Organization (WMO) Global Atmosphere Watch Programme (GAW)

【後援】大気環境学会、埼玉県環境科学国際センター、アジア大気汚染研究センター、U.S. Environmental Protection Agency、Korean Society for Atmospheric Environment (KOSAE)、Integrated Research on Disaster Risk (IRDR)、Monitoring, Analysis and Prediction of Air Quality (MAP-AQ)、株式会社エックス都市研究所

【協賛】日本気象株式会社、日本エヌ・ユー・エス株式会社、株式会社 KANSO テクノス、一般財団法人日本気象協会、株式会社エックス都市研究所、一般財団法人日本環境衛生センター、株式会社堀場製作所、株式会社ニューテック、株式会社数理計画

表1 プログラム概要

		午前		午後		夜
7月17日	トレーニング (1日目)	CMAQ basics		CMAQ applications		
7月18日	トレーニング (2日目)	CMAQ applications (cont.)		Street-in-Grid		
7月19日	本会議 (1日目)	Opening session	Plenary 1-4	AQNEA	Street-in-Grid	Poster session
				Aakash	Multi-effects and policy making	
7月20日	本会議 (2日目)	Ozone and PM _{2.5} pollution in Asia-Pacific region				Social event
		Updating of air quality modeling	Linkage between air quality, climate, energy, and ecosystem	Emission inventory (1)		
7月21日	本会議 (3日目)	Emission inventory (2)	Closing session			
		Multi-scale modeling applications and evaluation				



本会議参加者の集合写真